

SERI NEWS RELEASE

平成 25 年 2 月 25 日

一般財団法人静岡経済研究所
理事長 鈴木一雄
〒420-0853 静岡市葵区追手町 1-13
アゴラ静岡 5 階
TEL054-250-8750
FAX054-250-8770

第 37 回

「静岡県版 景気ウォッチャー」調査(平成 25 年 1 月)

～現状判断、先行き判断ともに 3 期ぶりに改善に転じる～

- 平成 25 年 1 月実施の「静岡県版 景気ウォッチャー」調査では、県内景気の「現状判断指数（方向性）」は 50.5 と、前回 10 月調査（37.0）比で+13.5 ポイント上昇し、景気横ばいを示す「50」を 3 期ぶりに上回る「改善」判断となった。
- また、2～3 カ月先の「先行き判断指数（方向性）」は 56.6 と、前回 10 月調査（43.6）比で+13.0 ポイント上昇し、こちらも 3 期ぶりの「改善」判断となった。安倍政権が脱デフレを前面に押し出し、具体的な政策が執行されるのを待たずに円高是正、株価上昇が進み、所得上昇期待から消費マインドが上向きつつある。

担当：後藤淳一

経済政策転換で景況感是好転

デフレ脱却への期待膨らむ

平成25年1月調査では、現状判断指数は50.5と、前回調査（37.0）から+13.5ポイント上昇し、3期ぶりに景気横ばいを示す「50」を超えた（図表1、2）。先行き判断指数も56.6と前回調査（43.6）から+13.0ポイント上昇しており、政権交代で経済政策が転換されたことで、デフレ脱却による景気回復に期待が高まってきた（図表1、3）。

現状判断指数が上昇した要因として、大型商業施設の新設などで雇用関連が前环比+22.2ポイントと大幅に上昇したこと、小売店来客数の回復や住宅購入検討者の増加などから家計消費関連が同+13.8ポイント上昇したことが挙げられる。また、先行き判断指数が上昇した要因として、大型商業施設の新設効果に加えて円安・株高によるマインド改善が好影響を与えるという期待から雇用関連が同+31.9ポイントと大幅に上昇したことや、景気浮揚感から広告などの伸長を見込んで事業所向けビジネス関連が同+14.0ポイント上昇したことが挙げられる。

調査の要領

- (1) 調査目的：景気に関連した動きを観察できる立場にある人の協力を得て、景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断を調査することを目的にしている。
- (2) 調査対象：家計消費、事業所向けビジネス、雇用など、経済活動の動向を敏感に反映する事象を観察できる業種から選定した担当者。

分野	ウォッチャーの代表的な業種
家計消費関連（n=81）	
小売関連（n=30）	百貨店、スーパー、乗用車販売、書籍販売 など
飲食関連（n=13）	飲食店、割烹、外食チェーン など
サービス関連（n=29）	観光ホテル、旅行代理店、カルチャーセンター など
住宅関連（n=9）	不動産販売、住宅販売、住宅展示場 など
事業所向けビジネス関連（n=17）	印刷、広告代理店、運輸、司法書士、情報サービス など
雇用関連（n=9）	人材派遣、職業紹介、求人情報誌 など

- (3) 調査方法：各企業の担当者に対するアンケート調査
- (4) 調査事項：①現在の景気の水準について
②景気の現状に対する判断（3カ月前との比較）
③その判断理由と、追加説明および具体的状況の説明など（自由回答）
④景気の先行きに対する判断（2～3カ月先の予想）
- (5) 調査時点：平成25年1月下旬
- (6) 回答状況：調査対象107名のうち、有効回答を寄せていただいた方は107名で、有効回答率は100.0%である。

* 景気判断指数とは、景気の現状や先行きに対する判断を点数化（下表）し、それらに各判断の構成比（%）を乗じて指数（D.I.）化したものである。これにより、判断指数（方向性）においては、50を上回れば「改善」、下回れば「悪化」の傾向を示すこととなる。

評価	現在の景気 (水準判断)	良い	やや良い	どちらとも 言えない	やや悪い	悪い
	現状判断	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	先行き判断	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
	点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0